

# 小平図書館友の会 会報41号

ネット公開版



発行日 2018年11月15日  
発行者 小平図書館友の会会長 剣持 香世

ブログ <http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>  
連絡先 ブログ掲載のメールアドレスへ

## もくじ

私と学校図書館（会員寄稿）	1	学習会報告	6-7
川本三郎さん講演会聴講記(2018. 6. 30)	2-3	声に出して本を読む会	
文学散歩 (2018. 6. 1)	4	読書サークル・小平	
小平市小川西町図書館の移転予定	5	図書館について学ぶ会	
第21回 友の会総会 報告 (2018. 10. 13)	5	YAを楽しむ会	
		図書館協議会報告	7
【お知らせ】 声に出して本を読む会 発表会(2018. 11. 23) / 第21回チャリティ古本市	8		

## 私と学校図書館

会員 高木 享子

私は以前、大阪の小学校で学校司書をしていた。

その頃のことを振り返ると、登校してきた子どもがふらっと一人でやって来て静かに本を読んでいる後姿とか、登校途中で捕まえた虫を持ってクラスの友だちと一緒に図鑑を広げてワイワイ言っている子たちとか、カウンターに紙芝居を持ってきて「読んで！」とせがむ子どもとかが目につかび、懐かしい。

子どもたちは本だけではなく、ドラマや映画、ゲームでも物語を楽しむ。人気の映画やドラマが流行るとノベライズ本をリクエストする子どももいた。つい大人はノベライズ本の出来を気にするが、子どもたちの好奇心は旺盛だ。

ある時、「図書館戦争」(有川浩)が大好きな大学生と話したことがある。彼は、「本を読んで面白くなって、アニメ、漫画、映画、全部見ました」と言った。それを聞いた時、「ああ、そんな物語の楽しみ方もあるのだな」と感心した。多様なメディアの中で生きている人たちの読書は、今後どうなっていくのだろう。図書館は彼らにとって楽しめる場となっているだろうか。

ところで、学校図書館は読書の場だけではない。ユネスコ学校図書館宣言に、「学校図書館は、今日の情報や知識を基盤とする社会に相応しく生きていくために基本的な情報とアイデアを提供する。学校図書館は、児童生徒が責任ある市民として生活できるように、生涯学習の技能を育成し、また、想像力を培う。」とある。私は学校司書としてどれほどのことができたのだろうかと同時に、こうした「はたらきのある学校図書館」が日本中に増えて欲しいと願う。

小平市に越して初めて行った大沼図書館で、『わがまちの学校図書館づくり』(学校図書館を考える会・近畿)を見つけた。私が所属していた会が自分たちの実践を報告した本だが、「誰かの寄贈かな。それとも、リクエストしてくれたのかな。」と嬉しくなった。このまちにも、学校図書館の充実を願っている人たちがいることを心強く思った。

川本三郎さん講演会 “『男はつらいよ』を旅する” を聞いて  
2018.6.30  
会員 風間 禎之助

「私、生まれも育ちも葛飾柴又です。帝釈天で産湯をつかい、姓は車、名は寅次郎、人呼んでフーテンの寅と発します」——これは故渥美清さん主演の映画『男はつらいよ』の名台詞ですね。

図書館友の会主催で著述家川本三郎講師による“『男はつらいよ』を旅する”という講演が6月30日、小平市中央図書館で催されました。当日猛暑の中、たくさんの聴講希望者が訪れて座りきれないほど入場され、遅れてきた方を申し訳なくもお断りせざるを得ないというような大盛況になりました。

川本さんには以前も「川本三郎さん漫画を語る」という講演をして頂きまして大変好評でしたが、今回の講演も川本さんの楽しい話に会場はしばしば笑いに包まれ、予定の2時間もあっという間に感じる楽しい講演でした。

会場を見て感じたことは、聴講者の皆さんは私を含め年配の方ばかり、『男はつらいよ』も“昔の映画”になってしまったのかなど、少し寂しい思いもしました。

講演の冒頭、川本さんが「『男はつらいよ』48本すべてご覧になった方いらっしゃいますか？」と聞いたところ、いました強者が！10人弱の方が手を挙げられていたので川本さんも、「そんなに！それは凄い！」とびっくりされていました。私は残念ながら3、4本ぐらいしか見ていません。

講演の内容は、映画の舞台になった場所を川本さんが2年あまりをかけて訪ね歩いた感想と、映画に出てくるシーンの思い出や鉄道などの話、山田洋次監督のロケ地選択の素晴らしさなどを事細かに語ってくれました。ロケ地は「温泉町」や「漁師町」そして「小京都」と呼ばれるような古い町並みのある地方が選ばれている。このような町は戦禍を免れた昔ながらの町並みが残り、寅さん映画に相応しい趣があります。ビル街では寅さん映画は馴染まないと言っていました。

それと北海道ロケも多く、山田監督は子供時代、満州で育ったという事で北海道のあの雄大な景色が満州の広大な景色に似ているところがあるので北海道ロケを多用したのではないかと。その中でも第5作望郷編、寅さんが昔世話になったテキ屋の親分が北



川本三郎さん  
2018. 6. 30  
小平市中央図書館  
視聴覚室

海道で明日をも知れぬ重病と知って見舞いに行くと、ヤクザな親を嫌って出て行った息子を探してくれと頼まれる。息子は鉄道の機関助手になっていて、蒸気機関車の「窯焚き」をしているということを知って会いに行くと「あんなヤクザな親には会いたくない」と拒否されてしまう。尚も諦めずその息子の乗ったD51をタクシーで追いかける、というシーンが素晴らしかった。シネマスコープの右から左へ真っ黒な煙を吐きながら走る機関車の雄大な映像は、鉄道ファンでしたらよくぞこんな映像を残しておいてくれたと思うはずの名場面です。他にも北海道は趣のある鉄道がどんどん廃線になってしまっていて『男はつらいよ』には貴重な映像が数多く残っていて、私のような鉄道ファンには大変有難いです。また、このロケのとき地元の人たちは寅さんの撮影があるという事で、機関車をピッカピカに磨いて待っていたそうです。山田監督としては、ちょっと薄汚れたくたびれた感じの機関車を撮影したかったので、びっくりしてしまったとか。

おかしかったのは、川本さんが「私が、都はるみが出演した31作目“旅と女と寅次郎”という作品についてある紙面で批評したとき、「寅さん映画はどれもがみんな面白く素晴らしい訳ではなくて、この作品はまったくの凡作、シリーズの中で駄作の最たるものではないか」と書いたら或る若者から手紙が来て、「僕はあの映画は大好きです、何故なら冒頭の寅さんが見る夢の中のシーンで僕が子供の頃見た映画の“怪獣ギドラ”が登場するシーンがあるので、僕にとっては貴重な映画です」という抗議だったので。ですから映画というのは見る人によっていろいろな見方があるのですね。私のように鉄道や町並みを興味深く見るものもいれば、思い出の怪獣が出ていたということで感動する人もいますのです。怪獣映画といえば当時は東宝が大映だったので松竹で

も一本だけ怪獣映画を作ったのがその『怪獣ギドラ』だったものですからその青年にとっては貴重な映画だったのだと思います。それ以来私は、どんなつまらない映画でも決して「つまらない映画」とか「駄作」とかは「口が裂けても」言わないようにしましょう、と心に決めました——と。私は（えっ？ 川本先生、何度も“凡作、駄作”と言ってますけど・・・）と苦笑しました。会場も爆笑。これは川本さん流のジョークだと思いましたが笑いました。

川本さんは、寅さんシリーズで「おいちゃん役」に三人の方が演じていますが初代の森川 信さんが素晴らしかったと言っていました。私も全く同感で、森川 信さんの口癖のセリフに「ばっかだねえ～、寅の奴はほんとにばっかだねえ～」という、愛情の籠った“バカ”の言い方が可笑しく、記憶に残っていて真似をしたりしました。

その他にも、寅さんがおいちゃんに向かって「おいちゃんはそのな冷めてえ～人間だったのか！」と言われた時、いつになくおいちゃんが激怒して寅さんと大喧嘩なったシーンが印象的だったそうです。下町の人間は、バカだ貧乏人だと言われても怒らないが「冷たい人間」と言われることが最大の屈辱になるということを監督はよく知っていたのでこの大喧嘩のシーンを撮ったのでしょうか、と。

また、渥美清さんの滑舌の素晴らしさを挙げていました。確かに寅さんのセリフはどんなに早口のセリフでもちゃんと聞き取れます。渥美さんは若い頃、テキ屋の「啖呵売」の経験があったのでその経験が生きて、映画の中でもいろんな「啖呵売」を演じるシーンが出てきますが見事です。

その他、講演話は多岐にわたり、難読駅名問題で必ず出てくる「轟木」（とどろき）という小さな無人駅に「さくら」役の倍賞千恵子が降り立つシーンがあるがこの駅はすぐ目の前が日本海、周りには人家もなく、当時ネット環境もない時代によくもこのような味のある駅を探し出したものと感心されたようです。

それからあるとき、数年前に亡くなられたミュージシャンの大滝詠一さんから川本さんのところに、お会いしたいという連絡を頂き、お会いしたら大滝さんも古い映画のロケ地の研究をしているという事

で意気投合、いろいろ話しをしたら、ミュージシャンの片手間とは思えぬほど事細かに調べられていて、思わず凄！と脱帽してしまった。その時に今は無い岩手花巻電鉄の話が出て、ここのレールが特別狭い狭軌のため車両の幅も狭く、前から見ると馬の顔に見えることから「馬面電車」とアダ名されていたこと、そして新藤兼人監督の『銀（しろがね）心中』という古い映画にこの馬面電車が出てくることも知っていてびっくり、大滝さんの博識振りに感動されたと話していました。

あと、テレビでは妹「さくら」役をやった長山藍子が映画では酷い悪女を演じた。豆腐屋の娘で寅さんが惚れているのを知っていながら、店を散々手伝わした挙句、最後に「私の恋人です」と男を連れてきて寅さんに紹介するという、あまりにも酷い女を演じていて、何度見ても私は寅さんが可哀想で泣けてしまう、というような話もありました。他にも脇役の話など興味深い話もありましたが書ききれません。ほんとうに楽しい2時間の講演でした。

長くなりますので、映画の話らしくこのお粗末な講演レポートもこの辺で「完」と致します。

PS. 『男はつらいよ』の50作目を山田洋次監督が故渥美清さん主演で制作するというニュースを見ました。現代はCG加工して素晴らしい映像を制作することが出来るようですから楽しみです。

\* \* \*



『「男はつらいよ」を旅する』  
川本三郎 著  
新潮選書  
2017年5月25日発行  
286ページ

本書の内容(カバーより)

寅さんの跡を辿って<失われた日本>を描き出すシネマ紀行文——西行や種田山頭火のように放浪者であり、鴨長明や尾崎放哉や永井荷風のように単独者であった車寅次郎。すぐ恋に落ち、奮闘努力するもズッコケ続きで、高倉健の演じる役とは対照的な男——。なぜ、彼はかくも日本人を惹きつけるのか？リアルタイムで「男はつらいよ」全作品を見続けた著者もまた旅に出て、現代ニッポンのすみずみで見つけたものとは。

## 文学散歩 漱石山房記念館を訪ねて

2018.6.1 会員 杉本 順子

6月の初め、新宿区立漱石山房記念館を10人で訪ねました。念願だった文学散歩に初参加、企画してくださった方々に感謝しつつ早稲田に向かいました。駅から一步路地に入り、緩やかな坂道を登って行くと、去年9月に開館したばかりの新しい建物が見えてきます。ここは夏目漱石が晩年を過ごした旧居跡です。残念ながら昭和20年5月の山の手大空襲で焼失しましたが、作家人生11年の内、9年間を過ごし、名作のほとんどが「漱石山房」と名付けられたこの家で生まれました。

記念館では書齋と客間、その三方に回廊式のベランダが再現されていました。和服姿で籐椅子に座りベランダでくつろぐ漱石の写真は、とてもハイカラです。書齋は10畳の板の間にペルシャ絨毯が敷かれ、真ん中に紫檀の文机、その傍らに白磁の火鉢が置かれており、目の前に執筆中の漱石の姿が浮かぶようでした。何よりも圧倒されたのは、壁際の大きな本棚を埋め尽くし、床にもところ狭しと積み上げられた書籍の量でした。和・漢・洋書、合わせて数千冊に及ぶこれらの貴重な蔵書は、現在東北大学附属図書館に「漱石文庫」として納められています。漱石の愛弟子で当時東北帝国大学の図書館長を務めた小宮豊隆が、昭和18年から19年の間に同図書館に移しました。これにより戦災を免れ、今日まで守られていると学芸員さんから説明を受けて、私は感動を覚えました。蔵書の三割に漱石自身の書き入れやアンダーラインがあるとのこと、その後の漱石研究にどれほど役立ったか知れません。改めて図書館の存在意義を感じました。



「緑に囲まれた山門」(穴八幡宮)

会員 山内志津子さんより

書齋に続く客間では毎週木曜日の午後1時に門下生たちが集う「木曜会」が開かれていました。漱石は来る者は拒まず、自分の周囲に集まる若い人達に対しては面倒見がよく、つねに本音でぶつかる態度を示していたようです。門下生に慕われていたという漱石の一面を今回初めて知りました。また漱石と美術との深いつながりについても説明や展示があり、とても興味深く読みました。図書室やブックカフェも備えられていて、時間が許せばもっと長く滞在したいくらいでした。昼食はおいしい手打ちうどんを食べました。学生街らしく若い人で混み合い、小平市とは平均年齢が違うわねと笑いが起きました。

最後に鏡子夫人が漱石の虫封じにお参りした穴八幡宮を訪ねました。真夏を思わせる暑い一日でしたが、鎮守の杜でしばし静寂と涼風を味わい帰途に就きました。

新宿区立漱石山房記念館

<http://soseki-museum.jp/>

〒162-0043 新宿区早稲田南町7

電話：03-3205-0209 FAX：03-3205-0211

開館時間 10時00分～18時00分（入館は17時30分まで）

※漱石公園開園時間 4月～9月 8時～19時

10月～3月 8時～18時

※ブックカフェ利用時間 10時～17時30分

開館時間等は、2018年11月時点のウェブサイト情報によっています。

訪問される際には、最新情報をご確認ください。

## 小平市小川西町図書館が小川駅西口のビルに移転予定

西武線小川駅西口にできる高層ビルの4、5階に、市が公共スペースを確保、現在の西部市民センターの3つの施設（図書館・公民館・市役所西部出張所）と元気村おがわ東の一部が移転することになるようです。ビルの完成と入居は2023年の予定とのこと。

これは、小平市の公共施設マネジメント推進計画に基づいて行われる公共施設の建替えに伴って行われるもので、2か所の公共施設の建替え・複合化が行われます。対象となるのは、

- ① 中央エリア：中央公民館、福祉会館、健康福祉事務センター
- ② 小川駅西口エリア：西部市民センター（図書館・公民館・市役所西部出張所）と元気村おがわ東の一部

どちらもすでに説明会、意見交換会が各所で行われていますが、今後の説明会等の日程としては、

- (1) 利用者・利用団体ヒアリング：12月4日（水）10：00～12：00 小川西町公民館ホール  
（要申込）※詳しくは、市のホームページをご覧になるか、市役所公共施設マネジメント課へ。

<https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/071/071682.html>

- (2) 中央・小川デザインカフェ「中央・小川デザインプロジェクト～次の世代の施設を考えよう～」  
（要申込 各エリアごとに定員30人 先着順）

【日程】第1部（11月10日、12月2日、12月22日）、第2部（1月19日、2月17日、3月17日）  
小川駅周辺エリアと中央公民館周辺エリアに分けて開催。

詳しくは、市のホームページご覧になるか、市役所公共施設マネジメント課や小川西町公民館、図書館に電話等でお問合せください。

<https://www.city.kodaira.tokyo.jp/kurashi/071/071985.html>

移転、複合化となれば、いろいろな面で使い勝手についての思いが浮かびます。日頃利用している者だからこそ出せる意見がたくさんあるのではと思います。これらの機会を活用してはいかがでしょうか。

## 第21回 友の会総会 2018.10.13

10月13日（日）午後1時30分より、中央図書館視聴覚室で、第21回総会を開催しました。高松館長補佐に来賓としてご出席いただきました。

9月末現在の会員数は133名、出席者23名、委任状64通、計87名。副会長の挨拶の後、議長に由井敬さんを選出、今年度の活動報告・決算報告、活動計画・予算案を各担当により説明、古本市収入より、東日本大震災被災地図書館支援及び、小平市立図書館へ物品寄付を行うことを承認。また、役員改選にあたり、新役員の選出についても拍手で承認しました。

総会終了後、館外奉仕室で、1時間ほど懇親会をもちました。22名が参加し、ひとりひとりの自己紹介をかねた話はずんで、和気あいあいと過ごしたひと時でした。  
（入山弘之）

新しい役員体制は、次のとおりです。

会長 剣持香世

副会長 藤原紀子 内田清子

事務局 伊藤規子

会計 白井由美

広報 入山弘之 剣持香世

会計監査 風間禎之助 大槻 真

役員会に参加していただく各学習会の方。

声に出して本を読む会 雑崎亮平 吉田淑江

YAを楽しむ会 杉本順子 伊藤規子

読書サークル・小平 大森輝久

図書館について学ぶ会 塚本健男 剣持香世

障がい者サービス学習会・交流会 塚本健男



2018.10.13 第21回総会

## 学習会報告

### 声に出して本を読む会

「声に出して本を読む会」の当面の活動は、11月23日(金)於 西東京「コール田無」(午後2時開演)で、「第14回ことばの玉手箱」開催に、すべてを集中している毎日。

舞台での動きや表現の充実(とくに筆者)など課題は山積み、さらに10月からの演習には、小野田正先生(演出家)はじめ、ピアノやチェロ、照明などのご協力も得て、残された演習日程に戦々恐々の日々です。これまで、「本読み」中心でしたが、これからは「動き」も取り入れ、ご来場の皆様に、どのようにアピールできるか、いよいよ本番を意識した演習日程です。

発表会のテーマは「秋に・・ものがたりをよむ」で、二部構成。第一部は、田辺聖子作「今昔物語」より一空櫃の僧一、一蘆刈一、芥川龍之介作「仙人」を、第二部は、音楽と語りによるものがたり一宮沢賢治「セロ弾きのゴーシュ」と、まどさん(まど・みちお)の詩。

残された演習日(概ね7日~10日に一回)、観客の皆様と、朗読を通じて暖かい交流の場をつくりたいと、頑張っています。(雑崎亮平)

### 読書サークル・小平

隔月1回(奇数月)、日曜日の午後、主に小平市中央公民館和室で例会を行っています。

会員以外でも参加できます。

— 5月から9月までのテキスト —

- 第46回 2018年5月27日  
本郷和人 著『日本史のツボ』文春新書(2018年)  
磯田道史 著『日本史の内幕—戦国女性の素顔から幕末・近代の謎まで』中公新書(2017年)
- 第47回 2018年7月15日  
半藤一利/出口治明 著『明治維新とは何だったのか 世界史から考える』祥伝社(2018年)
- 第48回 2018年9月23日  
橋 玲 著『朝日ぎらい よりよい世界のためのリベラル進化論』朝日新書(2018年)

### <予告>

次回日程: 11月25日(日) 14:00~

場所: 中央公民館 和室つつじ

テキスト: 広井良典 著『持続可能な医療』

ちくま新書(2018年)

【サブテキスト】

西谷 格 著『ルポ 中国「潜入バイト」日記』

小学館新書(2018年)

### 図書館について学ぶ会

障がい者サービス学習会と合同で活動しています

2018年4月-9月では図書館についてのニュースの交換を主として活動してきました。

従来同様、障がい者サービス学習会と合同で学習会等を開催してきました。

日常の活動は地味でしたが、今までとは毛色が変わったイベントを実施しました。6月15日に「代官山 蔦屋書店」(広義には「代官山 T-SITE」と呼ぶ)を見学してきました。



2018/6/15 代官山 蔦屋書店見学

4000坪もの樹木に囲まれた土地に長方形の2階建コンクリート造りの建物が3棟、間隔を開けて平行に並んで建っています。外壁は「TSUTAYA」からとったTの字型のコンクリートブロックが埋め込まれています。建物間の連絡は1階、2階とも幅広の連絡通路が建物に直角に渡されています。2階の通路は屋根、壁、窓を備えて雨風が入らぬようにできています。1階通路は2階の通路を屋根代わりにしているだけで、雨風に対応していません。

この3棟に書店、文房具店、おなじみのスターバックス、レストラン、コンビニ等が店を構えています。単なる商店街ではなく、蔦屋書店とつながってお客に不便をかけないよう商品の揃えをある基準で実施するようになっていると仄聞しています。

蔦屋書店とスターボックスが同居しておりますので、今流行の「ブックカフェ」という事で、ここも照明は暗くなっています。

本は、極力、平台と平台の上の本棚に配置して売っています。本棚は少し暗い中でも本を取りやすいように高さを抑えた棚となっています。本の配列は書店ですから、いわゆる関連分野を含めて本のグループを作っていく方式です。蔦屋書店は23分野作り、その分野に従って本を配列しているようです。

この辺まで見ていくと、蔦屋書店の親会社CCCが唱えている「図書館改革」とは、図書館の「蔦屋書店化」かなという気がしてきます。(塚本健男)

## Y A を 楽 し む 会

YA（ヤングアダルトの文学）を楽しむ会は、毎月第3金曜日、午前10時から12時まで、元気村おがわ東の会議室で行っています。毎月二冊の課題本を読んで自分たちの感想を述べあうのですが、本の受け止め方、感じ方がそれぞれ違うので、一人で読むよりも何倍も一冊の本を楽しむことができます。本の感想を話しながら時には本からそれて、子どもの頃や家族のことなどに話がどんどん広がり、気がつくと思いつきに自由に語っています。

テキストは毎回皆で出し合って決めています。私などは一冊がやっとのことも多く、メンバーの感動した感想を聞いて読まなくちゃ！と後から本を読んだりもします。毎回10人前後のメンバーが集まりますが、楽しい会なので関心のある方は是非ご参加ください！お待ちしております。(内田清子)

—2018年5月から10月までのテキスト—

- 5月18日(金) 『銀いろの記章』 K. チャコフスキー 理誦社  
『運命の騎士』 ローズマリ・サトクリフ 岩波少年文庫
- 6月15日(金) 『パーフェクトコピー』  
アンドレアス・エシュバハ ポプラ社  
『おれはロボット』 アイザック・アシモフ 早川書房
- 7月20日(金) 『エリコの丘から』 E. L. カニグズバーク  
岩波少年文庫  
『レモンの図書室』 ジョー・コットリル 小学館
- 8月31日(金) DVD鑑賞『マレフィセント』  
ディズニー・ピクチャーズ製作
- 9月21日(金) 『百年後、ぼくらはここにいないけど』  
長江優子 講談社  
『ぼくはO・C・ダニエル』 ウェスリー・キング 鈴木出版

- 10月19日(金) 『愛ときどきくもり』  
ジョン・ロウ・タウンゼンド 晶文社  
『秘密の道をぬけて』 ロニー・ショッター あすなろ書房

## 図書館協議会報告

(2018年度上半期)

2018年4月-9月では3回の協議会と1回の「地区図書館見学会」が開催されました。

昨年度の2017年5月開催の図書館協議会で「市政を取り巻く社会状況を考慮し、時代の変化に対応した図書館サービスを提供するため、図書館機能の充実と見直しに着手する」旨の挨拶が当時の地域学習担当部長からありました。それを受けて中央図書館に「図書館のあり方検討会」が設置され、図書館協議会も「図書館機能の充実と見直し、図書館のあり方検討」をテーマに議論を開始しました。

協議会の委員の任期は1期2年ですので、協議会の結論を2年間の議論を経て2019年3月に「提言」という文書の形で中央図書館長に提出の要があります。この提言を受けて中央図書館長は2019年-2021年にかけて事務局としての具体的なプラン、行程表を策定することになります。

だんだん協議会が議論をしている時間が少なくなってきました。2018年11月から提言に何を織り込むかという議論に移行していくようです。

(塚本健男)

\* \* \*

### 図書館オリジナルグッズをご存じですか？

小平市内にある武蔵野美術大学の視覚伝達デザイン学科の学生たちがデザインした、小平市立図書館のオリジナルグッズが販売されています。

トートバッグ(300円)

クリアフォルダ(3種・各180円)

小平市立図書館と武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科の学生さんとのコラボ作品です。

一部、売り切れのものもあるようです。各館で在庫をご確認ください。



# イベントのお知らせ

小平図書館友の会 声に出して本を読む会 発表会

第14回 ことばの玉手箱 秋に…「ものがたり」をよむ

2018年11月23日(金・祝)

開演 午後2時(開場 午後1時30分)

会場 コール田無

西東京市田無町3-7-2 電話 042-469-5006

西武新宿線 田無駅より 徒歩10分

※会場には駐車場がございません。お車でのご来場はご遠慮ください。

会場の地図 <https://goo.gl/maps/rjhV4o89RoH2>

入場無料 (定員180名・先着順)

第一部 田辺聖子 作「今昔物語」より 一唐櫃の僧一 一葦刈一

芥川龍之介 作「仙人」

第二部 音楽と語りによるものがたり

宮沢賢治 作 中村夏子 音楽 「セロ弾きのゴーシュ」 まどさん(まど・みちお)の詩

構成・演出 小野田正

音楽 中村夏子(作曲・ピアノ) 山崎明子(チェロ)

照明 小木直樹

出演 大森晶子 門坂徳子 雑崎亮平 清水順子 末松昌美 富岡いづみ 矢部幸子 吉田淑江

お問い合わせ先 042-345-1789(さいざき)



## 第21回 チャリティ古本市

会場 小平市中央公民館ギャラリー

2019年3月23日(土) 午前10時~午後5時

3月24日(日) 午前10時~午後3時

寄付本受付 3月20日(水)~22日(金)

午前10時~午後4時

中央公民館ギャラリーまでお持ちください

小平図書館友の会のチャリティ古本市は、小平市内外の市民の皆さまから寄付していただいた古本を廉価で販売し、その純益金を小平市立図書館への物品寄贈と、東日本大震災被災地図書館復興支援のための寄付金にあててきました。皆さまからの古本のご寄付と、ご来場、お買い上げをお願いします。

本が好きなん、  
待っています。

小平 図書館友の会



図書館友の会は  
図書館利用者がつなぐ会です  
1998年設立  
会員約130名

年会費大人	1000円
大学・高校生	500円
中学・小学生	300円

- 活動内容
- ◆文学散歩 ◆歴史散策
  - ◆講演会 ◆他市の友の会との交流会
  - ◆図書館にまつる会
  - ◆年一回 チャリティ古本市
  - ◆朗読会(発表会あり)
  - ◆交流紙・会報発行 etc.

入会案内は友の会ブログ内に詳しく掲載しています。  
下のURLか、右のQRコードをご利用ください。  
<http://yamaoji.cocolog-nifty.com/kltomonokai/>

